

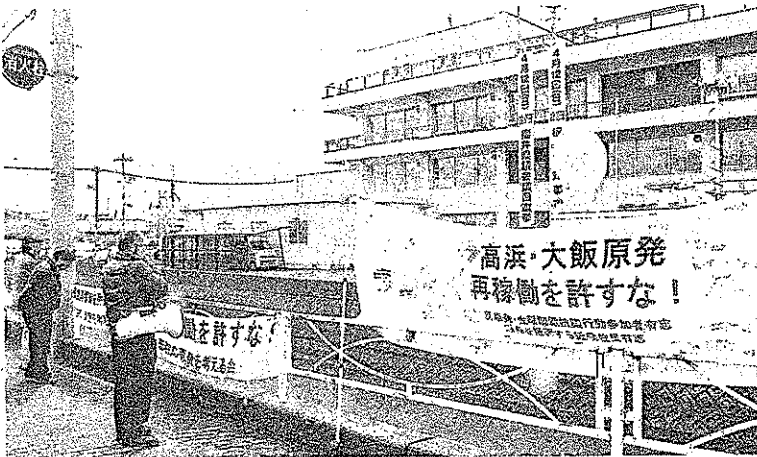
再稼働賛否深い溝

高浜「同意」の議場騒然

高浜町議会の全員協議会が二十日午前、立地する関西電力高浜原発3、4号機の再稼働に同意し、午後には開かれた本会議では、的場輝夫議長が経緯を説明した。傍聴席に陣取った県外の反対派からは「恥を知れ」などの罵声が飛び、議場は騒然。町内でも怒号こそないものの、反対派と賛成派の隔たりは依然として埋められないままだ。①面参照（平井孝明、塚田真裕）

議会の同意に法的な規定はないと考える同町中山、元町議池田康信さん（左）は「議員は事故が起きた際にその責任を取る覚悟があるのか」と疑問を投げかけた。避難計画の実効性が担保されるまで再稼働しないように求めた請願が議会で不採択とされた同町小和田、東山幸弘さん（右）は「もっ

高浜町役場前で高浜原発3、4号機の再稼働反対を訴える人々＝20日午前、高浜町宮崎で



と町民の声を聞くべきだった」と話す。「町内で放送された原発ビデオもほとんどの人が見ておらず、意見

集約とは程遠い。同意の判断は、避難訓練を実際にやったり、使用済み核燃料の処理のめどがついてからの話だ」と訴える。

一方、町の一般会計予算のうち、約半分が原発関連の収入。さらに、沈滞する町の経済活性化のため、再稼働を望む声も多い。

同町商工会副会長の田中康隆さん（左）は「町の男性の約二割が高浜原発で働いており、雇用創出の場になっている」と現状を説明し「今の安全対策工事が終わってしまえば、作業員の宿泊比率が高い民宿などは経営が厳しくなる」と案じた。「再稼働すれば民宿に宿泊客が戻り、民宿で働く人は

飲食店などを利用する。町る。地元である福井県および立地町の理解を得ながら、安全性が確認された原子力プラントの、一日も早い再稼働に取り組みたい」と話した。

関西電力の担当者は、町議会による同意について「大変ありがたく思っている」と話した。